

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年12月3日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873600472		
法人名	社会福祉法人 東湖園		
事業所名	高齢者グループホーム 百歳万歳	ユニット名	
所在地	〒311-1504 茨城県銚田市安房1665-2		
自己評価作成日	平成22年5月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年11月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月15日	評価確定日	平成22年11月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 同一法人が運営する保育園との交流が数多くある。運動会や誕生会、納涼祭を通じて、園児達とのふれあう機会がある。</li> <li>○ 駐車場にミニ畑を作り、入所者が作業しやすいよう工夫し、職員と共に野菜作りや水やりをしている。</li></ul>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人合同の納涼祭に地域の人々の参加を得たり、季節の野菜等の差し入れがあるなど、利用者は地域とつながりながら暮らしている。</p> <p>運営母体関連の医療機関と連携を図り、利用者や家族等の希望にそった適切な医療が受けられる支援体制になっている。</p> <p>職員は利用者がゆったりと自由な生活ができるよう配慮するとともに、利用者ができることを把握しカラオケや習字、手作りの作品を随所に飾るなど、利用者の気持ちや和む環境づくりをしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関、スタッフルームに掲示しカンファレンスや会議等で理念の意識を確認し、より具体的なケアの実践に取り組んでいる。	「和やかな顔、親愛の気持ちで接する態度」を理念に掲げ、管理者と職員は共有し実践につなげているが、地域密着型サービスの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下」という観点を踏まえた理念を盛り込むまでには至っていない。	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることができるよう、地域密着型サービスとしての理念を全職員で話し合い作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、地元のボランティアの訪問を積極的に受け入れ、地域との交流を深めている。特別養護老人ホームと合同で主催する納涼祭に地域の人々を招待している。近隣の農家の方が野菜等を届けてくれる。	利用者の誕生会に保育園児が来訪し遊戯をして楽しませてくれたり、近隣の農家の人々が野菜を届けてくれるなど日常的に交流している。 地域ボランティアを受け入れ、利用者は一緒にカラオケなどを楽しんでいる。 法人合同の納涼祭に地域の人々を招待し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護支援センター主催の介護者教室に参加し、介護方法やグループホームについて説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を実施し、又、必要に応じて開催する。利用者の状況等について話し合いをし、意見を求めている。	地域包括支援センター職員が参加して、運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事報告、行事予定などについて話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 これまでの外部評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見等をもらえるようにしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時などの機会に話す機会を持っている。	市担当者や地域包括支援センター職員と連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行っている。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員が身体拘束を実際に体験する内部研修を実施するなど、積極的に身体拘束をしないケアに取り組むとともに、玄関は施錠せず自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき、利用者や家族からの不安や疑問に対し十分に説明をし納得を得て行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設け、自分で書ける方は書いて頂き、書けない方は口答で申し出て頂き、それについて、利用者や家族、職員間で話し合い、より良い方法を考えている。	家族等からは面会時や電話で意見や要望を聴くほか、利用者からは日々の生活の中で話し合い、出た意見等を運営に反映させている。 管理者や職員は出た意見等を毎日の会議で話し合い、原因を分析して利用者との信頼関係につなげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、又、随時グループホーム会議を設けて意見を聞いている。	管理者は月1回会議を開催し、職員の意見等を聞く機会を設けている。 シフト勤務の問題点や利用者の夜間の過ごし方など、職員から出た意見等を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価表を用いて自己評価をしてその後、管理職が再評価している。 又、外部研修に出来るだけ参加してもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間計画で研修を行っている。 又、毎日の申し送り、日常業務の中で助言や指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内のグループホーム協議会開催の研修に出席・県社会福祉協議会の施設長会議で他グループホーム管理者との意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に実態調査の為、訪問し、本人の訴えを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に実態調査の為、訪問し家族からの疑問、訴えを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあった施設か居宅か本人・家族・施設職員とよく話し合い、見極めをし、ケースによっては法人内の在宅介護支援センターと相談する事もある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と食事をしたり、洗濯物をたたんだり、畑で水やり、野菜作りを一緒にしている。又、その中で悩みや訴えを聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等には、家族に連絡し、参加して頂いて、食事等を共にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話をかけたり、手紙を書いたりして継続出来るよう支援している。	馴染みの人への手紙の代筆や投函、電話の取次ぎ、地域の美容院の継続利用など利用者の馴染みの人々との交流を支援し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の出来る役割（放送、洗濯たみ等）をしてもらい、お互い認め合えるような関係を築けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会をし、関係を継続している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にケアチェック表を利用してモニタリングし、希望、要望を把握している。	職員は利用者と日々の係わりの中で会話をする時間を設け、表情や言葉から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 把握した思いや意向を申し送りノートに記録しているが、意識的に他の申し送り事項と区別して記録するまでには至っていない。	利用者を日々ケアする中で把握した利用者の思いや意向を申し送りノートに記録しているが、全職員で共有できるような記録の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活について、実態調査資料を基に、趣味や以前の経験を暮らしの中に活かしていけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時、モニタリング、カンファレンスをし、状況を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者、家族の要望を把握して、これによって、アセスメントを行い、介護計画を立てている。	介護計画は利用者や家族等の要望を反映させるとともに、毎日の会議の中で話し合い作成している。 心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた記録を見直しながらモニタリングを行い、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の要望や事務の代行（振り込み等）を随時行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や保育園児たちに来て頂いたり、保育園の行事にも参加している。地元消防団、消防署の方々に避難訓練に参加して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者、家族の希望が優先であり、協力病院と連絡を密にして、気軽に相談している。	入居時にかかりつけ医を確認し利用者や家族等の希望にそって支援をしている。 通院介助は職員が行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム長が兼務し、夜間緊急時の相談対応が出来る。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>隣接地にかかりつけ病院がある為、入院時は毎日面会に行っている。</p> <p>又、隣接しているので早期退院による通院治療も可能である。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所前の契約時に話し合いをし意向を確認するようにしている。又、協力病院以外の病院入院時には随時家族と連絡をとり状況把握に努め、退院後の生活について話し合うようにしている。</p>	<p>重度化した場合や看取りの対応指針を作成しているが、事業所では重度化や看取りの対応はしておらず、対応方針を見直すまでには至っていない。</p>	<p>終末期ケアについて事業所でできること、できないことを明確にし、それに基づく書式の整備や体制づくりに取り組むことが望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応マニュアルを作成すると共に研修会を設けている。又、看護師の配置、緊急時における連絡網の掲示、病院が接待しているなど、緊急時に対応できる体制となっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に消火訓練、避難訓練を実施し、地元の消防団の方々にも参加して頂いている。非常災害用に3日分位の水や食料品の備蓄をしている。</p>	<p>消防署や消防団の協力を得て火災避難訓練や通報訓練、夜間想定訓練を法人合同で年2回、事業所独自に年4回実施している。</p> <p>実施記録を作成し今後の訓練に活かすとともに、運営推進会議で報告している。</p> <p>災害に備え食糧品や飲料水等を備蓄している。</p>	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入所者の生活歴や生活を十分に把握し、常に官舎の言葉や優しい言葉をかけている。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成するとともに、職員は利用者の自己決定を促す言葉かけをするよう努めるほか、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入所者の希望を大切にしたいケアを心掛けており、食べたい物を選んだ食事作り、野菜作り、収穫、習字、カラオケ、手芸など入所者の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者のペースに合わせて、ゆったりとした雰囲気の中でトイレ、食事や散歩、買い物を見守りながら一人ひとり支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者は好みの服を買いに行ったり、着たり、美容室も本人の好みの所へ行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食べて頂く為に本人の好みの箸、食器等を使用している。座る位置も定着している。テーブル拭きや食器の片付け等も共に行っている。	食材は外部から購入しているが、地域の人々からの野菜のお裾分けや、利用者がブレンダーで作った野菜を食材とし、その都度献立を考えている。 花見などの行事の際に刺身を食べたり、誕生会には利用者の好みのもを取り入れて、食事が楽しめるよう支援している。 利用者は職員と一緒に食器の後片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者一人ひとりの食事や水分摂取状況を把握し、チェック表に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きや義歯の手入れ、うがいなどは自分で出来る方は行って頂き、出来ない方は支援している。又、年に1回協力歯科医に来園してもらい、健診を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを知り自立に向けて支援している。 介助が必要な方は定期的に誘導している。	排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。 居室のトイレや共同トイレを利用するなど、利用者一人ひとりの希望にそった支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事をはじめとして、野菜を多く取り入れた献立をたてて調理している。 又、1日2回体を動かす為に体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所者の希望に応じて、毎日、又は1日おきに実施し、ゆったりと入浴出来るよう支援している。シャワーベンチ用シャンプー、マット等も本人の好みのものを個別で使用している。	利用者の希望にそって毎日午前、午後どちらでも入浴できるよう支援している。 入浴を拒む利用者には、声かけをしたりシャワー浴や清拭等を実施し、一人ひとりに応じた入浴支援をしている。 ゆっくり入浴したい利用者には見守りをしたり、シャワーベンチやシャンプー、マットなど利用者一人ひとりの希望の物を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出やレクリエーションなどを通して入所者が夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の飲み方や副作用等の症状の変化の早期発見に努めている。薬の服用によって変化がある場合には医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事やおやつ時の放送、洗濯たたみ、園芸時、入所者一人ひとりの役割や楽しみごとに応じた支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者一人ひとりに合わせて外出出来るように支援している。（買い物、ドライブ、地域の催し物への参加） 又、家族の協力を得て面会時等外出している。	利用者は日常的な散歩のほか、家族等の協力を得て墓参りに出かけている。 月1回は花見や茨城空港へのドライブなどを計画し実施している。 職員は地域の催し物への参加や、週2回食材を含めた買い物を支援し利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人は小遣いの範囲内で自己管理してもらっている。その他は個別に支援している。 出納は家族に定期的に書面で報告している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時は、電話をかけたり、手紙のやり取りが継続出来るようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員が共に作成した作品や七夕かざり、お月見団子、桜、あじさい等、季節の花等を飾るようにしている。又、菖蒲湯、柚子湯の入浴や鏡餅作り等も行っている。	食堂からは季節の花やプランターで育てている作物等を観賞することができ、季節の移り変わりが感じられる。 居間兼食堂には、利用者同士が寛げる椅子やテーブル、テレビを設置し、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。 台所や浴室、トイレなどは清潔に保たれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナー、畳コーナー等、共用空間にそれぞれ工夫があり、利用者が思いおもいの場所で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人、家族の要望を取り入れてそれぞれ装飾品、ラジオなどを持ち込み落ち着いた生活を送っている。	利用者や家族等の要望を取り入れ、テレビや衣装ケース、家族等の写真、ラジオ、ぬいぐるみなどを持ち込んでもらい居心地良く暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名前を居室のドアノブへ表示し、認知度により室内の家具等にも表示している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 高齢者グループホーム 百歳万歳

作成日 平成22年11月24日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	職員は、利用者と日々のかかわりの中で、会話する時間を設け、表情や言葉から利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握した思いや意向を申し送りノートに記録しているが、意識的に他の申し送り事項と区別して記録するまでには至っていない。	職員全員が把握できるように記録の方法を工夫する。	本人の思いや意向等について、アンダーラインやマーカーで印をつけ、全職員が分かりやすいような記録方法をとることにした。	1年
2	1	「和やかな顔、親愛の気持ちで接する態度」を理念に掲げ、管理者と職員は共有し、実践につなげているが、地域密着型サービスの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下」という観点を踏まえた理念を盛り込むまでには至っていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して、実践につなげている。	地域密着型サービスの基本方針の「家庭的な環境と地域住民との交流の下」という観点を踏まえた理念を全職員で話し合い、作成した『グループホーム百歳万歳は、家庭的な環境作りに配慮し、地域との交流が継続されるような援助をする施設を目指します』	1年
3	12	重度化した場合や、看取りの対応指針を作成しているが、事業所では、重度化や看取りの対応をしておらず、対応方針を見直すまでには至っていない。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいく。	看取りのファイルの書式、指針、具体的な見直しをし、どこまでやるのかを明確にする。契約書の内容を見直し、具体的に提示するようにした。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。